



# Contents

P.2 Top Message  
P.3 企業プロフィール  
P.5 北海道コカ・コーラグループの CSR 活動  
P.9 World Without Waste  
P.13 環境  
P.19 食の安全と健康  
P.23 地域社会  
P.27 より良い職場づくり  
P.30 コカ・コーラとオリンピック

## CSRレポート編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2020」は、当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく紹介し、ステークホルダー (利害関係者) の皆さまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

## 対象期間

2019年1月1日～2019年12月31日。実績データは2019年、活動内容の一部は2020年も含みます。

## 対象組織

原則的にグループ連結会社を対象としています。  
(P.4「グループ会社の概要」参照)

## 経営理念

私たちは、知的に活性化された  
豊かで創発的な社会に貢献します。

## 経営指針

- 私たちは、
- 1 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
  - 2 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
  - 3 変革にチャレンジし、活力ある創発的な会社をつくります。

## 社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

## 主要製品ラインナップ



炭酸飲料

コーヒー飲料



茶系飲料

果汁飲料

水系飲料

スポーツ飲料



エネルギー飲料

特定保健用食品

機能的表示食品

アルコール飲料

## さわやかさと潤いを提供し、 道民の皆さまから愛され続ける企業を目指して

私たち北海道コカ・コーラグループは、北海道に生まれ、北海道の皆さまに育てられた道産子企業です。私たちが果たすべき役割は、私たちの事業を通して、地域や生活者の皆さまの課題解決に貢献していくことであると考えています。

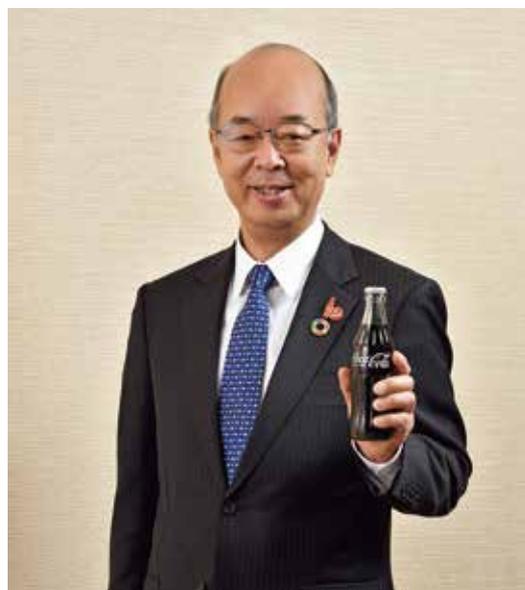
私たちは昨年、国際社会の共通目標である「SDGs」を新たな指標ととらえCSR活動の強化を図りました。これは、私たちのCSR活動を「SDGs」の掲げる17の目標や169のターゲットと照らし合わせながら進めることで、持続可能な社会づくりに向けて今まで以上に北海道に貢献していこうという考えに基づくものです。

そして現在、私たちが最も力を入れている活動が「WWW」、即ち「廃棄物ゼロ社会（World Without Waste）」の実現を目指す取り組みです。2030年までに全てのPETボトルをサステナブルな素材に変えていくことや販売したPETボトルと同等量のPETボトルを回収することを目標に北海道のパートナーの皆さまと一緒に取り組んで参ります。

北海道の豊かな大地で育まれた良質な原材料を使って、北海道の自社工場で製造した様々な清涼飲料水を北海道の生活者の皆さまにお届けする事業を行っている私たちにとって、どんなに時代や環境が変わろうとも北海道に貢献することが企業活動の基盤であるという考えは変わりません。

これからも持続可能な社会の実現と「さわやかさと潤いを提供し、道民の皆さまから愛され続ける企業」を目指して活動を続けてまいります。

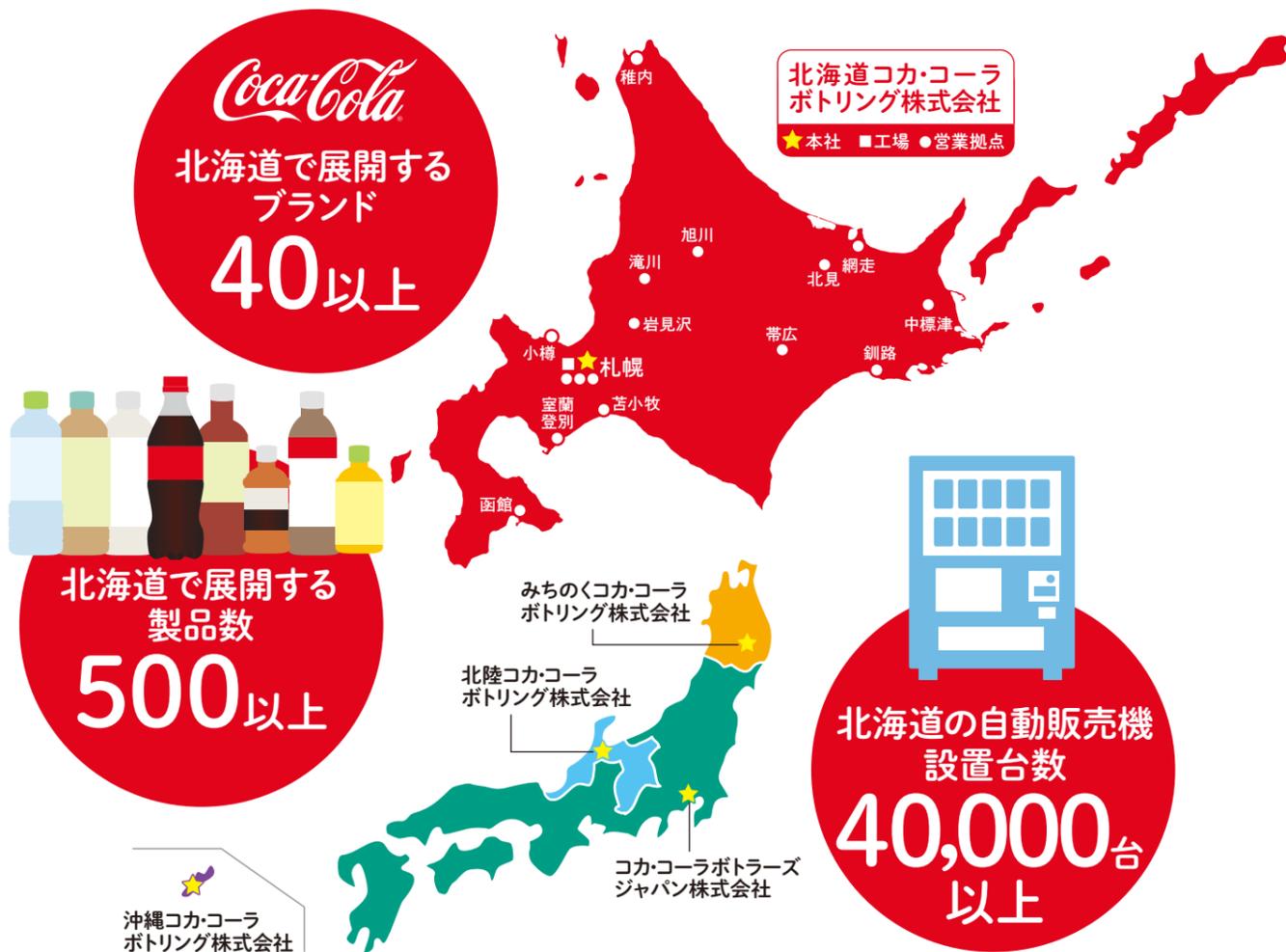
代表取締役社長 **佐々木 康行**  
Sasaki Yasuyuki



# 地域の健全な発展のために、 北海道の皆さまと協働しながら、 社会的責任を果たします。

## 日本のコカ・コーラシステム

日本コカ・コーラ株式会社から原液の供給を受けて製品の製造と販売を行うのがボトラーで、当社を含め全国に5社あります。当社は札幌本社を中心に全道16カ所の事業所を展開しています。



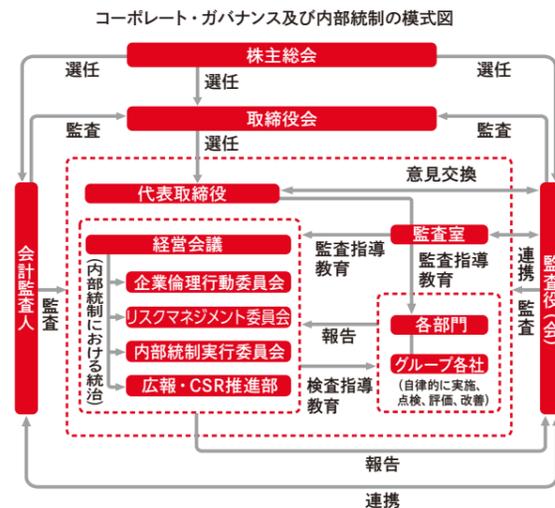
## 会社の概要 (2019年12月31日現在)

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 (コカ・コーラ指定会社) HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役社長 佐々木 康行
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL (011) 888-2001 (代表)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	411名(グループ1,295名)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造及び販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点 (16)
決算期日	毎年12月31日 (年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

## マネジメント体制

### コーポレート・ガバナンス

お客さま、株主、従業員、取引先、地域の皆さまなど、さまざまなステークホルダーとメリットを持続的に分かち合い、すべての業務において、共通の価値を創造できる関係づくりを重視しています。社内では経営意志の的確な決定とそれに基づく業務遂行、適正な監督・監査体制を整えるために、内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得を目的とした「北海道コカ・コーラグループコンプライアンス管理基本規程」を定めています。



## グループ会社の概要

- 北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社**  
清涼飲料水及び飲料水用容器の製造  
各種自動販売機の修理、設置及び撤去
- 北海道ベンディング株式会社**  
自動販売機による飲料、食品等の販売
- 幸楽輸送株式会社**  
コカ・コーラ社製品の工場・営業拠点間の輸送、一般貨物輸送、倉庫業
- 北海道サービス株式会社**  
一般事務処理業務、事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業

## 企業集団の財産及び損益の状況

(単位:百万円)

区分	第56期 (2017年)	第57期 (2018年)	第58期 (2019年)
売上高	56,061	55,997	55,292
経常利益	2,431	2,220	2,086
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,884	1,412	1,420

## リスクに備えて

### 危機管理体制の強化

天災や製品事故など緊急事態に遭遇した場合は、独自の「リスクマネジメント方針」に基づき、リスクマネジメント委員会が主導してただちに部門横断的に対応できる体制を構築しています。ベースには、コカ・コーラシステムがリスクマネジメント及び危機管理プログラムとして定めているIMCR (Incident Management&Crisis Resolution) があります。

### BCP (事業継続計画) の策定

被災によって事業を停止させないことを目的に2015年にBCPを策定しました。北海道のライフラインの一端を担う企業としての責任を果たすために、ふたつのポリシーを掲げています。

- 北海道の生活者に安心・安全な製品・サービスを安定的に供給する。
  - 事業継続に重要な資産(人・組織、製品・マーケット、情報、インフラ、財務)の復旧・保護を優先的に実行する。
- とし、平成30年北海道胆振東部地震の際は、このBCPに基づき生活者に安定的な製品供給に向けた取り組みを行いました。



非常用発電機

# 北海道コカ・コーラグループのCSR活動

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

CSR活動の3つの領域「環境」「食の安全と健康」「地域社会」において、SDGsの目標を達成するため、ステークホルダーとのパートナーシップを大切に、地域課題の解決に貢献します。

### CSR活動方針

- ・ステークホルダーからの企業評価向上を目指した取り組みを推進します。
- ・環境保全活動などのCSR活動を自発的に行う企業風土を育てます。
- ・事業活動と連動させた継続可能な社会貢献活動を推進します。

### SDGs基本方針

「北の大地とともに」を合言葉に、事業活動を通じた地域課題の解決に取り組んできた当社グループにとって、SDGsを新たな指標ととらえ、「魅力あふれる北の大地『北海道』」を次世代にしっかり継承し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。



## 食の安全と健康

高品質で安全安心な製品の提供による健全なライフスタイルへの貢献

- 地産地消を応援 ●北海道の健康を支える取り組み
- 安全と健康を守るマネジメントシステム  
(「KORE」によるオペレーション管理、国際規格の取得)
- お客さまとのコミュニケーション(お客さま対応、工場見学)



年間製造本数  
約6億本

工場見学来場者(累計)  
約81万人

北海道限定製品  
15種類



## 北海道の限りある水資源と価値ある自然を次世代へ

- 水資源保護活動の推進(製造過程における水使用量削減、製造過程で使用する水の循環、地域の水資源保護)
- 環境教育の推進
- 北海道の環境保全(北海道e-水プロジェクト、環境支援自動販売機)
- 環境会計について



## 環境

北海道e-水プロジェクトへの支援(累計)  
約1.25億円  
延べ101団体

白旗山での森づくり(植樹累計)  
約3,550本  
(協定面積)1,063ha

環境教育参加人数(累計)  
約10,150人



## どさんこ企業として取り組むべき健全な地域づくり

- 地域とともに進める住みよいまちづくり(北海道との包括連携協定、子どもの安全を見守る運動)
- 安全安心への取り組み(自治体との協働による防災、北海道開発局との取り組み、北海道警察との協働)
- 地域の企業・団体との連携(キッズタウン、ふれあいボランティア除雪、清掃活動、動物園との協働)
- 社会貢献活動の支援(各種寄付型自動販売機)
- 地域活性化のお手伝い(お祭り、スポーツの支援、製品贈呈)



寄付型自動販売機  
43種  
約1,200台

社会福祉施設への製品贈呈(累計)  
約340万本  
52年継続

災害時の製品供給と自動販売機のフリーバンド台数(直近3年間)  
59,304本  
78台



※フリーバンド/災害時に自動販売機内の飲料が無償で提供される機能のこと

# 2019年CSR活動ダイジェスト

1年間で取り組んだ主な活動です。  
2019年ならではのトピックスは太字で表しています。

- 札幌市より北海道胆振東部地震における感謝状を受領
- さっぽろ雪まつりの大雪像制作隊に飲料を提供
- 当社全社大会でCSR活動に取り組んだ社員を表彰



- ふれあいボランティア除雪を実施(札幌市豊平区・清田区、三笠市)
- 北海道対がん協会へ「ピンクリボン活動支援自動販売機」の寄付金を贈呈
- ホクレン農業協同組合連合会と「北海道酪農応援事業」推進協定を締結「MOOMOO自販機」の運用を開始



- さっぽろ雪まつり実行委員会へ「さっぽろ雪まつり応援デザイン缶」の寄付金を贈呈
- 釧路市へ「釧路スケート応援自動販売機」の寄付金を贈呈
- 北海道コカ・コーラ presents「レバンガ北海道 VS. 横浜ビー・コルセアーズ」を開催
- 日本赤十字社へ「い・ろ・は・す天然水」募金を北海道胆振東部地震の義援金として贈呈
- 北海道より北海道胆振東部地震における感謝状を受領



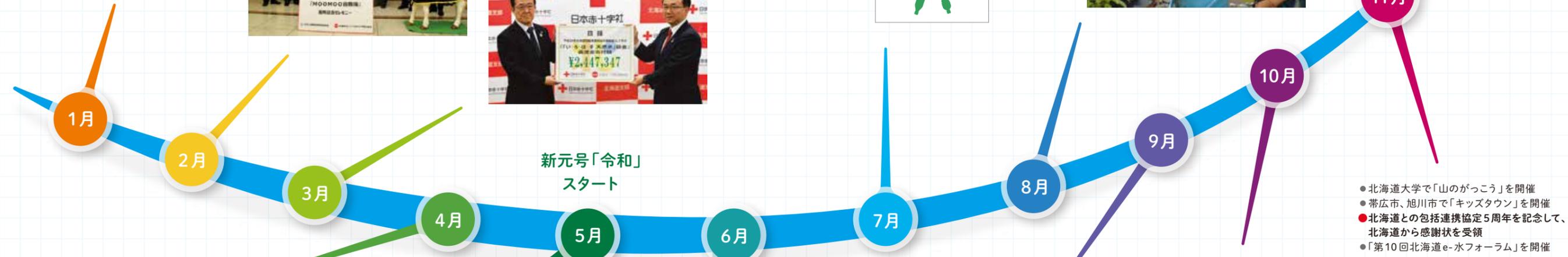
- 幸楽輪送(株)が「インクルージョンボール」事業へ参画
- 白旗山で「山のがっこう」を開催
- YOSAKOIソーラン祭り組織委員会へ「YOSAKOIソーラン祭り応援デザイン缶」の寄付金を贈呈
- さっぽろ連携中核都市圏「まちづくりパートナー協定」に参画
- グローバルな取り組み「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」を目指した新たな環境目標を日本のコカ・コーラシステムが設定
- 「第2回こころとからだ うるおいアカデミー」開催(札幌医科大学)
- 釧路市で「キッズタウン」を開催



- 北海道コカ・コーラスペシャルマッチ「北海道日本ハムファイターズvs. 東北楽天ゴールデンイーグルス」を開催
- 「コカ・コーラ環境フォーラム」を開催



- 全道各地の社会福祉施設・子ども食堂へクリスマスプレゼントとして製品を贈呈
- 工場見学来場者が年間で2万人を突破
- 道の駅「遠軽 森のおもちゃ」で「おしらせ道ねっと」運用開始(遠軽町、北海道開発局網走開発建設部)
- コカ・コーラ教育・環境財団より北海道胆振東部地震被災3町へバスを寄贈



- 「北海道e-水プロジェクト2019」キックオフミーティングを開催
- 子どもたちの未来を応援する「あさひやま“もっと夢”基金」に寄付金を贈呈
- 道の駅「あびら D51ステーション」で「おしらせ道ねっと」運用開始(安平町、北海道開発局室蘭開発建設部)
- 日本アイスホッケー連盟支援自動販売機の運用を開始



- 道の駅「北オホーツクはまとんべつ」で「おしらせ道ねっと」「子育て応援自動販売機」の運用開始(浜頓別町、北海道開発局稚内開発建設部)
- 旭川市旭山動物園で循環型農園「つながる輪『いのち』」農園開き
- 「子ども未来文庫」応援自動販売機の運用を開始
- 知床の環境保全活動に関する寄付金を贈呈(斜里町、羅臼町)



- 札幌市円山動物園へ「ミニツツメイド Qoo どうぶつデザイン」の寄付金を贈呈
- 札幌大通公園清掃活動2019年度の活動がスタート
- 「コカ・コーラ札幌国際大学」がYOSAKOIソーラン祭りに参加



- 札幌市清田区のお祭りではCoke ONを活用して住民の健康増進を応援
- 旭川市旭山動物園の循環型農園「つながる輪『いのち』」で収穫祭
- 「コカ・コーラ『森に学ぼう』プロジェクト～わくわく体験ランド北海道 in 白旗山～」を開催
- 函館市で「キッズタウン」を開催



- 苫小牧市で「キッズタウン」を開催
- 道の駅「ルート229元和台」で「子育て応援自動販売機」の運用開始(乙部町、北海道開発局函館開発建設部)
- 北海道より「優良がん対策推進企業」として表彰
- 浜益の砂浜でゴミ拾いとビーチコーミングを実施
- 道の駅「スタープラザ芦別」で「子育て応援自動販売機」の運用開始(芦別市、北海道開発局札幌開発建設部)



- 北海道大学で「山のがっこう」を開催
- 帯広市、旭川市で「キッズタウン」を開催
- 北海道との包括連携協定5周年を記念して、北海道から感謝状を受領
- 「第10回北海道e-水フォーラム」を開催



# World Without Waste

## 容器の2030年ビジョン



2018年、ザ コカ・コーラ カンパニー (米国本社) は2030年までに、世界で販売する製品の販売量に相当する缶・PET容器をすべて回収・リサイクルする「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」の実現をグローバル目標として掲げました。これを受けて日本のコカ・コーラシステムは2018年1月、「容器の2030年ビジョン」を設定。2019年7月にはこれを更新して、従来の目標達成を前倒しする新たな環境目標を発表しました。

### 容器の2030年ビジョン

「設計」、「回収」、「パートナー」  
3本の柱から成る目標設定

#### 設計

容器の原料や形状をサステイナブルなものにしていくこと  
ボトルtoボトルの推進

#### 回収

販売した自社製品と同等量の容器を回収&リサイクル

#### パートナー

政府、自治体、飲料業界、地域社会との協働を通じ、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と維持

### 2030年までに

設計 DESIGN	回収 COLLECT	パートナー PARTNER
ボトルtoボトル / サステイナブル素材	PET樹脂の使用量	回収
		さまざまな取り組み



35%削減

製品1本あたりのPET樹脂の使用量 (2004年比)



国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収

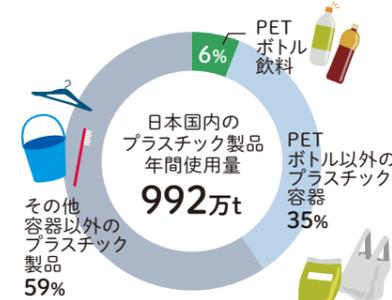


さまざまなパートナーと連携し、より着実な容器回収・リサイクルスキームを構築・維持

※「ボトルtoボトル」とはPETボトルを回収し、PETボトルとして再生すること。

## 日本のプラスチック製品及びPETボトルの現状

### プラスチック製品使用量におけるPETボトルの割合は6%



日常生活に欠かせない存在となった、プラスチック製品は日本国内で年間992万tが使用されています。そして、国内におけるプラスチック製品のうち、使い捨てのレジ袋や容器が全体の35% (344.2万t) を占め、PETボトルの割合は、全体の6% (62.6万t) です。

※一般社団法人プラスチック循環利用協会及びPETボトルリサイクル推進協議会(2018)のデータから当社試算

### PETボトルは優れた容器

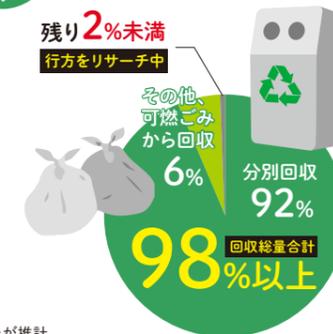
軽量で持ち運びやすく、飲みかけでもキャップでしめることができるため、衛生的にいつでもどこでも水分補給ができます。リサイクルすれば資源として有効利用できる点からも、極めて優れた容器です。



### 日本のPETボトル回収率は98%以上!

日本国内におけるPETボトルの回収率は、分別して回収されているものと、可燃ごみの中から分別回収されているものを合わせると、98%以上と推計されています。河川や海などにごみとして流出されているのは、残りの2%未満のうちの一部です。この2%がどこから流出しているのかを解明するためのリサーチが進んでいます。

※複数の自治体によるごみの実態調査を基に、日本コカ・コーラが推計

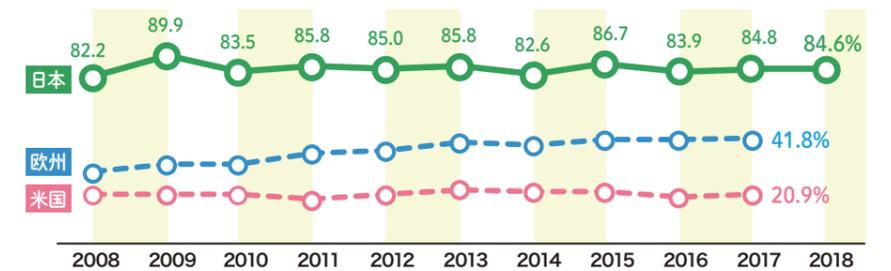


## PETボトルリサイクルの取り組み

### 高い水準を誇る日本のPETボトルリサイクル

日本のPETボトルは、高い回収率に加え、販売量に対して84.6%をリサイクルしており(2018年)、欧米と比較しても、高いリサイクル率を誇っています。また、その他のプラスチックのリサイクルと異なり、再資源化され、製品として使用される「マテリアルリサイクル」であることが特長です。

### 日米欧のペットボトルリサイクル率の推移



### 日本のPETボトルリサイクル率(2018年)



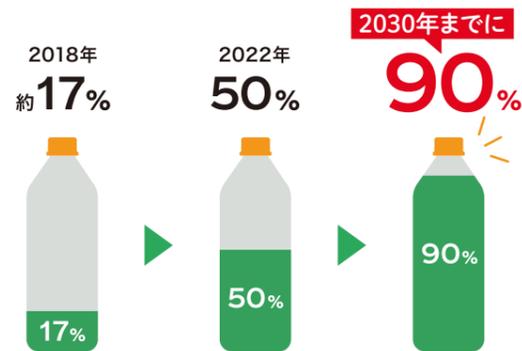
## 循環型リサイクル「ボトルtoボトル」

PETボトルは利便性・衛生面・環境負荷の全てで極めて優れた容器であり、回収した後、新しいPETボトルとしてリサイクルする「ボトルtoボトル」は、環境負荷の少ないリサイクル方法です。

リサイクルされたPETボトルを回収後に再生することで、循環型リサイクルが構築できます。

コカ・コーラシステムでは、「ボトルtoボトル」の割合を、2030年までに90%まで高めることを目指しています。

### コカ・コーラシステムが掲げる“ボトルtoボトル”目標



## いろはす® 天然水

100%リサイクルペットボトル\*1を国内最大規模\*2で展開  
“次世代ペットボトル”が登場!



厳選された日本の天然水を使用した  
ナチュラルミネラルウォーターブランド「いろはす」より、  
100%リサイクルペット素材を用いた  
「いろはす 天然水 100%リサイクルペットボトル」を発売しました。

### 「いろはす 天然水 100%リサイクルペットボトル」が 実現する環境への配慮

<p>1</p> <p>ペットボトルを資源として 循環利用する “ボトルtoボトル”</p> <p>使用済みペットボトルをリサイクルし、新たなペットボトルへ生まれ変わらせることで、資源を最大限活用</p> <p>ピカピカのボトルへ PETボトルを回収 ボトルがボトルになるまで PETボトルの原料になります 約8mm角に裁断(フレーク化)します</p>	<p>2</p> <p>年間で自動車*3およそ 4,000台分の重さに相当する 石油から新規に製造される プラスチックの使用を削減</p> <p>石油から新規に製造されるプラスチックの使用を大規模に削減*4し、環境負荷を低減</p> <p>年間、自動車 約4,000台分の プラスチック使用量を削減</p>	<p>3</p> <p>ペットボトル1本あたりの CO<sub>2</sub>排出量を 49%削減</p> <p>一般的なペットボトル*5と比較して、ペットボトル1本あたりのCO<sub>2</sub>排出量を49%削減し、環境負荷を低減</p> <p>ペットボトル1本あたりCO<sub>2</sub>排出量 グラム CO<sub>2</sub>/本</p> <p>一般的なペットボトル 60.1 いろはす天然水 100%リサイクルペットボトル 30.9 CO<sub>2</sub> 49%削減</p> <p>一般的なペットボトル 100%石油由来 (18グラムと仮定)</p>
--	---	---

\*1 100%リサイクルペット素材のボトル \*2 日本コカ・コーラ調べ \*3 一般的な小型自動車1台をおよそ1トンで換算した場合 \*4 「いろはす 天然水」の従来品555mlとの比較 \*5 石油由来100%のペットボトル

## 北海道コカ・コーラグループの取り組み

### 全道各地で清掃活動を実施

北海道の自然環境を守るため、道内各地で清掃活動を実施しています。

2019年、浜益川下海岸(石狩管内)にて「NPO法人北海道海浜美化をすすめる会」が主催する浜益ビーチコーミングに初めて参加しました。ごみの中には外国製の漁具や様々なプラスチック製品も見られ、あっという間に袋が満杯になるごみが集まりました。

「ビーチコーミング」と呼ばれる浜辺の漂着物調査も実施。旗で区切られたエリアのごみを1カ所に集め、種類を分別して記録しました。国内外からの漂着物を含めプラスチックが圧倒的に多く、約2時間でトラック1台分のごみが回収されました。



### 「容器の2030年ビジョン」体験コーナーを開設

日本国内におけるプラスチック資源の循環利用のさらなる加速を目指し、日本のコカ・コーラシステムで設定した「容器の2030年ビジョン」を、当社に訪れるお客さまや工場見学来場者など多くの皆さまに、直接見て、触れて、学んでいただく体験コーナーを当社1Fに開設しました。

体験コーナーでは、自動販売機型のリサイクル資源回収マシン「リバースペンディングマシン」の体験、PETボトルのリサイクル工程や素材に触れることができる展示など、見て、触れて、学びながら、プラスチック資源の循環利用について考える機会を提供いたします。



### 環境教育プログラムによる 啓発活動

水資源保護とプラスチック問題の解決を産学官民一体になって取り組むために、中学生を対象とした環境教育プログラムを制作しています。

- 1 地域選定、計画作成  
・場所、方法などの検討
- 2 ゴみの調査、清掃活動  
・子どもたちを中心に連携先と協働  
・年1~2回を予定
- 3 活動発表会  
・子どもたちの活動発表  
・有識者の講演

### 自主回収のテスト運用

自分たちが作ったものを自分たちで回収する。設置先の協力を得ながら、札幌市内を中心に自主回収の専用ルートのテスト運用を開始しました。



当社では、独自の取り組みで、プラスチック問題への理解促進を進めています。

# 1 環境



## 北海道の限りある水資源と価値ある自然を次世代へ

すべての生きものたちにとって「水」は命の根源です。北海道の豊かな水資源を活用する企業としてこのかけがえのない資源を守り、未来の世代へと引き渡していく責任があります。

### 環境理念

北海道コカ・コーラグループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

### 環境行動指針

1. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
2. 事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
3. 環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組みます。
4. 地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
5. 環境に配慮した物品の購入を促進します。
6. 環境関連法規制、KORE（コカ・コーラシステムが定める基準）及びその他の要求事項を遵守します。



## 水資源保護活動の推進

### コカ・コーラシステムが考える水の循環

当社は、貴重な水資源を利用して事業活動を行う企業として、製品に使用した量と同等の水を自然に還元する取り組みを進めています。指針に掲げているのが、「R」から始まる3つのキーワードです。まず、製造過程での水使用量の削減「リデュース (Reduce)」。次に、製造過程で使用する水の循環「リサイクル (Recycle)」。そして、地域の水源涵養「リプレニッシュ (Replenish)」。

当社が使用する水は、「製造に使用する水」と、「製品になる水」の、大きく二つに分けられます。「製造に使用する水」である洗浄水や冷却水の一部は、使用量を削減したり、再利用を行い最終的に適正な処理をした上で自然に還されます。「製品になる水」は、植樹などの森づくり活動を通じて水源の涵養能力を高めることで、自然への還元を図っています。



### 水源域での森づくり活動 Replenish

札幌工場が使う地下水の水源地が札幌市清田区の白旗山であることから、2011年に札幌市と結んだ「環境事業に関する協定」に基づき、白旗山の森づくりを進めています。水源の涵養能力を高め、環境体験学習の場を提供することを目的に、地元の子どもたちが参加する「コカ・コーラ『森に学ぼう』プロジェクト」や、北海道大学大学院環境科学院との連携による、水の科学をテーマにした環境教育プログラム「山のがっこう」を展開しています。



環境教育プログラム「山のがっこう」

### エレクトロン・ビーム殺菌 Reduce

札幌工場では、PETボトル製品の製造ラインで、エレクトロン・ビーム（電子線）による殺菌を行っています。これにより従来の殺菌に比べて水の使用量を大幅に減らすことに成功しました。

### ラグーン処理方式 Recycle

札幌工場の排水処理には、微生物の自己浄化サイクルを活性化させて余剰汚泥の発生量を抑える「ラグーン処理方式」を採用。国の排水基準を上回る自社基準を設けて、より高度な処理を実現させています。

## 環境教育の推進



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

### 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、栗山町及び同町の皆さんと連携して、旧・雨煙別小学校を体験型宿泊施設「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」に再生しました。NPO法人雨煙別学校の運営で、小学校の宿泊学習やスポーツ少年団の合宿などが行われています。また、毎年夏休みには「コカ・コーラ環境フォーラム」が開催されるなど、環境教育の場としても活用されています。

### 出張環境教育を実施

子どもたちに水資源の大切さや環境保全の意味を楽しく学んでもらうために、環境出張授業「水の授業」を展開しています。2019年は、道内各地の環境イベントをはじめ札幌市内の学校などでも実施し、約1,000人が参加しました。



「水の授業」の様子

## 北海道の環境保全

### 知床世界自然遺産への取り組み

2005年、流氷着岸の北半球南端であり、海と陸の原生的な自然が濃密に交わる知床が、世界自然遺産に登録されました。日本が誇るこの稀少な自然環境の保全に貢献することを目的に、当社は斜里と羅臼の両町で「知床応援自動販売機」の設置を展開しています（斜里町では2006年、羅臼町では2007年から）。2019年（2018年4月1日～2019年3月31日）は合わせて約95万円を寄付し、これまでの累計は、両町で約1,529万円となりました。



寄付金贈呈の様子

# 北海道e-水プロジェクト

## 北海道e-水プロジェクト

北海道の豊かな環境を道民全体で保全し、未来へと大切に引き継いでいくことを目的に2010年に立ち上がったのが、北海道、公益財団法人北海道環境財団と当社の三者協働で運営されている「北海道e-水プロジェクト」です。

このプロジェクトは、「い・ろ・は・す 天然水555ml」の売上の一部を同財団に寄付し、それを財源に北海道の水辺の環境保全に取り組む団体を支援するとともに、毎年11月には、活動内容を広く発信する「北海道e-水フォーラム」を開催しています。

2019年度の寄付額は約740万円で、プロジェクトの前身となる、北海道との「環境保護活動の推進に関する協定」に基づく寄付を含めた累計寄付額は、約1億2,490万円となりました。

北海道  
e-水プロジェクト  
への支援(累計)  
約1.25億円、  
延べ101団体



北海道e-水プロジェクト  
歴代支援団体所在地  
2019年までの10年間で延べ101の団体を支援することができ、活動の輪は全道一円に広がっています。



い・ろ・は・す 天然水  
(北海道採水)



覚書署名式の様子



北海道e-水フォーラムの様子

## 2019年の助成対象事業

河川流域や湖、そして海まで。北海道の水資源をめぐって、地域に根ざしたユニークな活動を展開する10団体の皆さまを支援しました。

【団体名】網走川流域の会  
【事業名】小さなごみも見逃さない！マイクロプラスチックを探せ！！  
【活動地域】網走川流域



私たちの調査で網走川にもマイクロプラスチックごみが見つかりました。そのため、ごみ拾いなど発生を抑制する活動を行いました。

【団体名】一般社団法人ちせ  
【事業名】沿岸漂着物に関する住民参加型調査と漂着物トランクキット開発  
【活動地域】石狩市(石狩湾海岸地域)、札幌市内



中高生が漂着物調査と結果の発表を通じて、漂着物問題を自らの問題として捉え、行動する姿勢が養われる活動になりました。

【団体名】石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク  
【事業名】石狩川流域湿地環境啓発事業  
【活動地域】石狩川中下流域(空知・石狩)



なかなか皆さんに伝えにくい湿地の魅力を知ってもらうための、とっておきムービーを撮影・編集することができました！

【団体名】道東のイトウを守る会  
【事業名】手作り魚道による釧路湿原のイトウ個体群の復元2019  
【活動地域】釧路川流域



関係行政機関や周辺住民の皆さんと連携して絶滅危惧種イトウの遊上障害となっていた落差工に魚道を整備することができました。

【団体名】阿寒湖のマリモ保全推進委員会  
【事業名】阿寒湖チュウレイ湾でのマリモ総個体数一斉調査プロジェクト  
【活動地域】阿寒湖



調査の広報活動をご支援いただいたおかげで160名のボランティアが集まり、約2万個のマリモの計測作業を終えることができました！

【団体名】NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト  
【事業名】環境共生型汚水処理システムの実践研究と普及活動  
【活動地域】余市郡余市町



市販の材料で電気などのエネルギーを使わずに高い浄化能力を持つ汚水処理システムの開発と普及啓発を達成することができました！

【団体名】大沼ラムサール協議会  
【事業名】Wise useを意識した地域づくりProject  
【活動地域】大沼



①水質調査、②外来種の普及啓発チラシ作成、③地域の問題を考えるシンポジウムを行いました。

【団体名】北海道北見北斗高等学校サイエンスクラブローカルアクションプロジェクト  
【事業名】常呂川水系を大切にプロジェクトー おいしい保全ザリガニウォッチング in 仁頃川ー  
【活動地域】常呂川水系流域(北見市)



小学生16名とウチダザリガニの防除活動を行いました。この小学生の中から未来の環境活動家が誕生してくれるとうれしいです！

【団体名】釧路自然保護協会  
【事業名】ヒブナ産卵地保護を目的とした効果的なウチダザリガニ駆除方法の開発  
【活動地域】釧路市春採湖岸北東部



市民の協力のもと湖内に底生物の侵入を防いだ実験用方形区を7箇所設置し、ウチダザリガニ駆除の効果を確認することができました。

【団体名】ヤツメウナギ研究会  
【事業名】北見幌別川水系及びその流域における河川資源の保護・増進事業及び環境保全に関する啓蒙活動(Reborn THE ヤツメ)  
【活動地域】枝幸町歌登地区市街地2級河川北見幌別川と2級河川ペンケンナイ川及びその支流を含む流域



助成金で活動に必要な電子顕微鏡等の購入や広報誌を発行するなどして、活発な調査及び広報活動ができました。

## 環境会計について

企業が環境保全に投じたコストとその活動により得られた効果を把握するために、「環境会計」という会計手法があります。

### 環境保全コスト

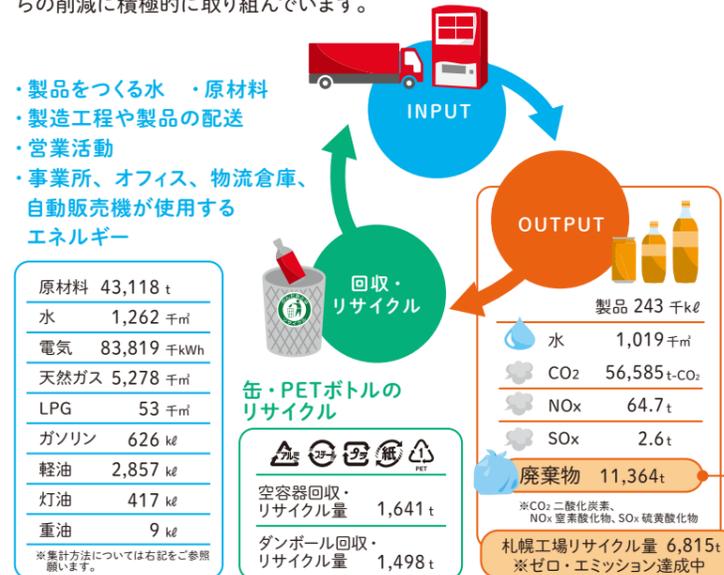
2019年度は、営業所や倉庫照明などのLED照明への切り替えを中心とした節電対策や、札幌工場のライン改造工事に伴い排水等の設備更新を行いました。また、コカ・コーラのグローバル目標である「World Without Waste」に基づき、廃棄物やリサイクルについてグループ会社含め説明会を開催し、正しい知識の浸透を図りました。今後も「廃棄物ゼロ社会」を目指して取り組みを継続していきます。

(単位：千円)

項目	主な取り組みの内容	2018年		2019年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
1.事業エリア内コスト	計	52,894	130,609	67,202	155,881
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他	10,054	24,807	23,732	27,582
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	40,356	19,741	43,470	21,524
	自動販売機のフロン回収・破壊	0	6,910	0	13,183
	天然ガス車・ハイブリッド車のリース費用	0	24,611	0	28,923
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル	2,484	52,026	0	63,635
	自動販売機の処理・リサイクル	0	2,514	0	1,034
2.上・下流コスト	計	0	112,399	0	89,470
	空容器の回収・リサイクル	0	24,382	0	24,850
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋	0	32,635	0	28,581
	再商品化実施委託料	0	55,382	0	36,039
3.管理活動コスト	計	0	31,630	0	30,793
	環境負荷の測定	0	21,795	0	21,915
	E MS構築・運用、環境コミュニケーション	0	9,835	0	8,878
4.社会活動コスト	計	0	13,236	0	12,474
	業界団体活動、環境支援活動 他	0	12,736	0	11,974
	本社構内緑化保守	0	500	0	500
	合計	52,894	287,874	67,202	288,618

### マテリアルバランス

事業活動において必要とされる資源・エネルギーの量(インプット)と、それに伴う廃棄・排出量(アウトプット)の関係を表したものをマテリアルバランス(物質収支)と呼びます。当社では生産活動における環境負荷を把握した上で、これらの削減に積極的に取り組んでいます。



### ゼロ・エミッション

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理をすべて廃止して、廃棄物全量をリサイクルするゼロ・エミッションに取り組んでいます。コーヒーと茶製品の生産量増加にともなって廃棄物排出量は増加傾向にありますが、2001年に達成したゼロ・エミッションを継続して達成しています。

**ゼロ・エミッションの内容**

リサイクル前	リサイクル後	工場廃棄物排出量 (単位：t)		
		2017年	2018年	2019年
コーヒーかす・茶かす	肥料	5,910	5,814	6,384
紙類	再生紙、ダンボール	162	163	174
プラスチック類	再生プラスチック、固形燃料	161	145	153
金属類	再生金属	84	84	80
汚泥	セメント原料、肥料	42	59	8
ガラス類	ガラスびん	0	0	0
一般廃棄物	発電、暖房燃料	14	13	16
	合計	6,373	6,278	6,815

### 環境効果

CO<sub>2</sub>排出量については、照明のLED化や自動販売機の適正台数見直しによる使用電力量の削減や、建屋の冷暖房設備更新に伴い灯油からLPガスへ燃料転換を行い削減に努めました。

また、有価物の売却額については、資源物の市況価格下落により減少しています。

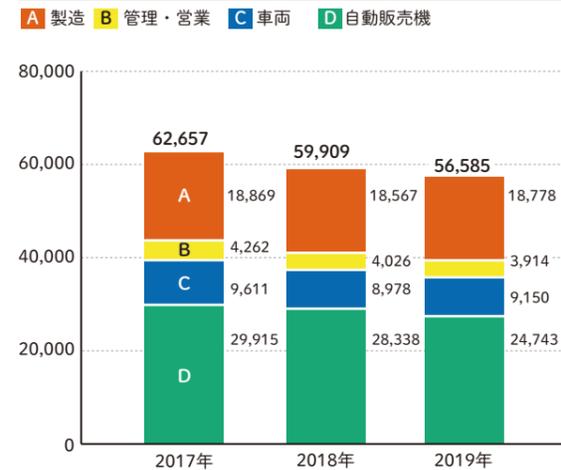
今後も省エネ活動やリサイクルの推進等、環境負荷低減に取り組んでいきます。

(集計方法について)

- ・CO<sub>2</sub>は電力・燃料より、NO<sub>x</sub>・SO<sub>x</sub>は燃料より算出しています。(SO<sub>x</sub>は排出量が微量であるため、環境保全効果の表中には記載していません。)
- ・燃料由来のCO<sub>2</sub>排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
- ・電力由来のCO<sub>2</sub>排出量は、電気事業連合会CO<sub>2</sub>排出原単位より算出しています。
- ・NO<sub>x</sub>排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
- ・SO<sub>x</sub>排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
- ・管理・営業の項目には、物流倉庫の数値を含めています。
- ・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。
- ・製造(井水)は製造量と運動しています。

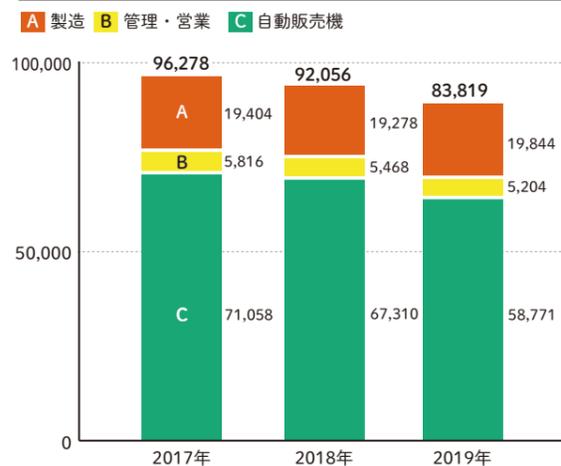
### CO<sub>2</sub>排出量の推移

(単位：t-CO<sub>2</sub>)



### 使用電力量の推移

(単位：千kWh)



### 環境保全効果

項目	単位	2017年	2018年	2019年		
		実績値	実績値	実績値	対前年増減率	
総エネルギー使用量(熱量換算)	GJ	1,328,422	1,271,697	1,192,699	-6.2%	
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	62,657	59,909	56,585	-5.5%	
NO <sub>x</sub> 排出量	燃焼設備	t	7.3	7.1	7.1	-0.2%
	車両	t	60.5	56.3	57.6	2.4%
水使用量	千m <sup>3</sup>	1,255	1,244	1,262	1.4%	

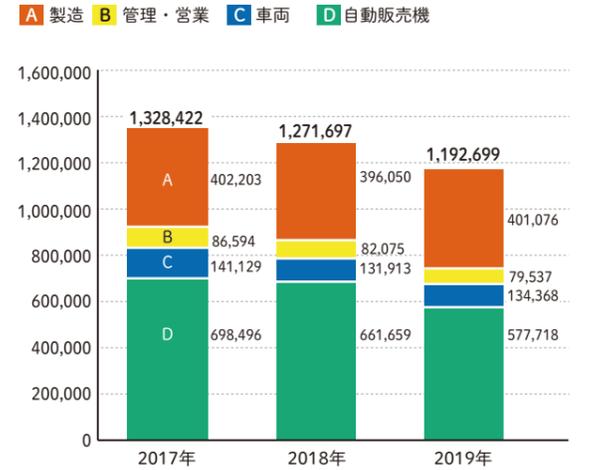
### 環境保全対策に伴う経済効果

(単位：千円)

内容	2017年	2018年	2019年
リサイクルにより得られた有価物の売却額(自動販売機、缶・PET、古紙等)	30,389	29,789	26,523

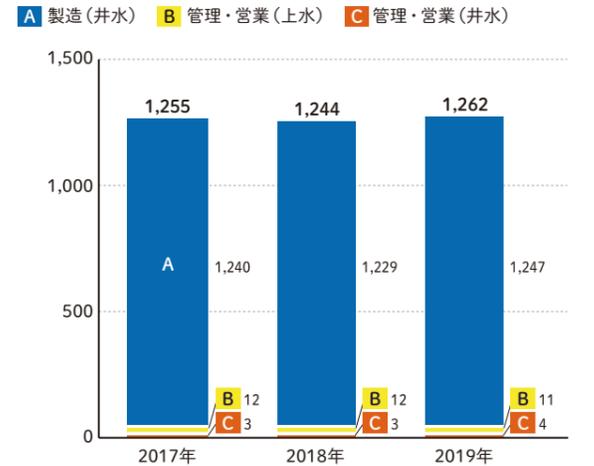
### エネルギー使用量(熱量換算)の推移

(単位：GJ)



### 水使用量の推移

(単位：千m<sup>3</sup>)





# 2 食の安全と健康



## 高品質で安全安心な製品の提供による健全なライフスタイルへの貢献

健やかなライフスタイルへの貢献をめざして、すべての製品を信頼される品質でご提供するために、コカ・コーラシステムでは独自のマネジメントシステムを運用しています。

### 地産地消を応援

#### 製品の9割を札幌工場で製造

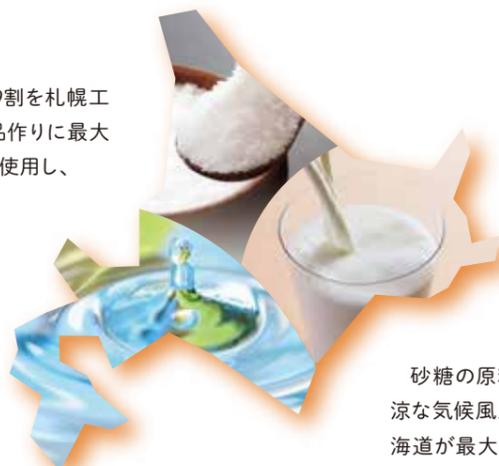
当社は北海道内で販売している製品のおよそ9割を札幌工場で製造しています。北海道の良質な素材を製品作りに最大限に活かすために、砂糖や牛乳には道産のものを使用し、北海道における地産地消に貢献しています。

#### 地産地消による環境負荷低減

北海道産の原料を豊富に使用して道内での製造にこだわることで、原料の産地と製品の消費地の距離を短縮。フードマイレージをおさえた環境負荷低減に貢献しています。

#### 札幌工場の製品に使用している水は100%北海道産（札幌市清田区の地下水）

当社の製品は、北海道の豊かな大地が作りだした良質な地下水を原料に生まれます。地下水の水源は、札幌工場と同じ清田区に位置する白旗山です。この山一帯に降り注いだ雨や雪は、長い年月を経て不純物が取り除かれた良質な水となり、地下水脈を形成します。それが、札幌工場の地下約200～400mまで掘った井戸から汲み上げられ、製造に使用されます。



#### 札幌工場の製品に使用している砂糖は100%北海道産

砂糖の原料となるビートの栽培には冷涼な気候風土が必要なため、日本では北海道が最大の生産地です。当社ではその北の大地に育まれた道産砂糖を100%使用しています。

#### 札幌工場の製品に使用している牛乳は100%北海道産

上質な牛乳は、大地と草と乳牛が作り出す北海道の恵みの代名詞。当社が使う牛乳はすべて、酪農王国北海道産です。

年間製造本数  
約6億本

### 北海道限定製品

北海道に暮らす皆さまや北の大地を旅する皆さまへ。当社は北海道ならではの限定製品を製造・販売しています。



ココ・コーラ スリムボトル (北海道限定デザイン) | いろはす 天然水 (北海道採水) | いろはす ハスカップ | ミニッツメイド 山ぶどう&白桃 スパークリング | ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン | YOSAKOIソーラン祭り応援デザイン缶 | さっぽろ雪まつり応援デザイン缶 | ジョージア サントスプレミアム | ジョージア ザ・ブレンド | ジョージア オリジナル 北海道限定デザイン | ジョージア ミルクコーヒー

### 北海道酪農応援事業「MOOMOO自販機」

2019年2月、当社はホクレン農業協同組合連合会と「北海道酪農応援事業」推進協定を結び、酪農家の支援活動に協働で取り組み始めました。その背景には、2018年9月の北海道胆振東部地震により北海道全域がブラックアウト現象に襲われ、停電によってポンプが止まり牛舎の水が確保できないなど、酪農家が甚大な被害を受けました。

この事態を受け、同連合会と「牛の飲み水細目協定」を結び、当社グループ会社の幸楽輸送(株)と協働で、災害時の牛の飲み水の供給を支援します。

また、ホルスタイン牛をイメージした「MOOMOO(ももも)自販機」という新しい自動販売機を、ホクレン農業協同組合連合会と協働で開発しました。その売上金の一部は、若手酪農家の育成や、仔牛の防寒に使うカーフジャケットなどの支援物資の購入に充てられ、2020年1月には、カーフジャケット180枚(2枚1組90セット、約100万円相当)を酪農家へ贈呈しました。

北海道の基幹産業のひとつである酪農では、担い手の育



「MOOMOO自販機」支援物資贈呈式

成や生産基盤の強化が課題となっていますが、当社は、リスクへの対策と未来づくりの両面で、北海道の酪農にエールを送ります。

## 北海道の健康を支える取り組み

### 札幌医科大学との包括連携協定

2018年10月、当社は北海道公立大学法人札幌医科大学(札幌市中央区)と包括連携協定を結びました。産学の連携を通じて北海道の保健・医療・福祉の向上の発展に貢献することを目的に、水分補給・熱中症対策・健康・食育など、当社の事業活動と関連の高いセミナーなどを、同大学と共催しています。

2019年7月には、「親子で学べる! ころとからだ うるおいアカデミー」を共催。この催しでは、「体の水の秘密」をテーマに、体内の水の大切さや水分補給・塩分補給の重要性について親子で楽しく学んでいただきました。



「親子で学べる! ころとからだ うるおいアカデミー」の様子

### Coke ONウォーク

「Coke ON」は、対応する自動販売機で飲料を買うとスタンプがひとつ貯まり、これを15個集めるとドリンクチケットがもらえるスマートフォンアプリです。このアプリに、歩数目標を達成するとスタンプを獲得できる「Coke ONウォーク」のサービスが加わりました。累計歩数ごとの特典や期間限定のイベントを通じて、皆さまの健康の習慣づくりをお手伝いします。当社では2019年9月、このアプリを活用して、自治体との初めての協働となる「Coke ONウォーク」イベントを札幌市清田区で実施しました。



### モクテル

「Mock (似せる・真似をする)」と「Cocktail (カクテル)」を組み合わせるのが「モクテル」で、ノンアルコール・カクテルを意味する新しい造語です。海外ではポピュラーなこの分野の拡大を目指して、お酒を飲まない方も楽しめる多様な「モクテル」の提案に取り組み、お客さまの生活スタイルの広がりをサポートしています。



## 安全と健康を守るマネジメントシステム

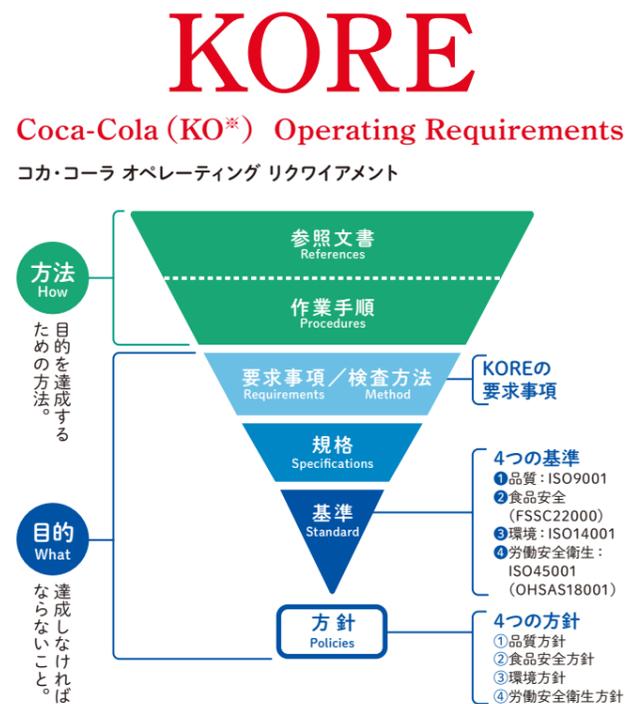
### 「KORE」によるオペレーション管理

コカ・コーラシステムでは、KORE(コア・Coca-Cola Operating Requirements)と呼ばれる独自のマネジメントシステムによるオペレーション管理を世界共通で行っています。一般にモノづくりには、原材料の調達から製造、物流、販売というすべての過程でつねに複雑なリスクがありますが、KOREではすべてのプロセスにおいて、「品質」と「食品安全」、「環境」及び「労働安全衛生」に関する独自の基準が、国際規格ISOや各種法令よりもさらに厳しい基準で定められています。

### 「KORE」の構造

KOREには、「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」という4つの要素があり、各々には、「方針」「基準」「規格」「要求事項」「作業手順/参照文書」という5つの階層があります。「方針」から「基準」「規格」「要求事項」までは目的を定めたもので、「作業手順/参照文書」には、その達成のための方法が示されています。

※「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているコカ・コーラカンパニーの略称です。  
※「KORE」にはISO9001(品質マネジメントシステム)、FSSC22000(食品安全マネジメントシステム)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、ISO45001(OHSAS18001)(労働安全衛生マネジメントシステム)の基準が含まれています。



### 賞味期限切れの防止

全製品の鮮度の管理目標や製品取扱管理基準を設けて、賞味期限切れや容器不良などを防いでいます。自動販売機については、営業担当者が適正本数の充填とチェック活動を徹底。また工場倉庫から自動販売機に充填されるまでの管理や在庫の適正化、温度管理などのガイドラインを設けています。

## お客さまとのコミュニケーション

### お客さま対応の基本理念

当社は、高品質な製品を通してお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けする企業活動を展開しています。そのために重視しているのが、お客さまとのコミュニケーションです。つねに安心できる製品とサービスを提供するとともに、お客さまからの声を事業に活かしながら、地域の皆さまから「信頼され、認められる企業」を目指しています。

### お客さま対応の基本方針

- (1)お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- (2)お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- (3)社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- (4)お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。

### ISO9001、FSSC22000認証取得

品質マネジメントシステム: ISO9001取得  
食品安全マネジメントシステム: FSSC22000取得



### 製品に関するお問い合わせ

日本コカ・コーラ(株) お客様相談室  
**0120-308509** (土日祝日を除く 9:30~17:00)  
URL <https://www.cocacola.co.jp>  
北海道コカ・コーラボトリング(株) 広報・CSR推進部  
**011-888-2131** (土日祝日を除く 9:00~17:30)

### 工場見学 入場無料

当社のモノづくりの現場を知っていただくために、随時工場見学を受け付けています。衛生管理と先進のシステムが稼働する製造ラインや巨大な立体自動倉庫がご覧いただけます。終了後には試飲もお楽しみください。

工場見学  
来場者数  
(累計)  
**約81万人**



- 見学できる日時/月~金曜 (10:00~11:30、13:30~16:30)  
※7~9月は土曜も見学可能です。  
※製造ラインが稼働していない場合は、映像でのご案内となります。
- 所要時間/約60分  
※ご要望に応じて調整できます。
- ご案内人数/2~140名



### お申し込み

前日までの完全予約制です。電話(前日まで)または専用WEBサイト(3日前まで)からご予約ください。  
※定員になり次第、受付終了となりますのでご了承ください。

**011-888-2100**  
(受付時間/月~金曜 9:00~17:30)  
<https://factory.hokkaido.ccbc.co.jp>



# 3 地域社会



## どさんこ企業として 取り組むべき 健全な地域づくり

地域の未来こそが私たちの未来です。  
社会の複雑な営みの基盤に  
深く関わりながら、何ができるかを考え、  
地域課題の解決に向けて  
できることから1つずつ実行していきます。

## 地域とともに取り組む住みよいまちづくり

### 北海道との包括連携協定

北海道と協働で安全・安心なまちづくりや環境保全などに尽力してきた当社は、2014年、その取り組みをさらに深く広げていくため、以下の6項目において北海道との包括連携協定を結び、どさんこ企業として地域との絆を深める活動を展開しています。

- 安全・安心な地域づくり ●観光振興 ●食や健康
- 環境保全・環境教育 ●固有文化・歴史の伝承
- その他双方が必要と認める事項

### 子どもの安全を見守る運動

子どもたちを日常のリスクから守ろうと、当社が北海道へ政策提案することで始まったこの運動は、道が2006年度赤レンガチャレンジ事業として推進した「民間企業等とのタイアップ事業」第1号となり、その後「安全・安心どさんこ運動」へ発展しました。当社では事業所と車両(約900台)にポスターやステッカーを掲示しながら、社員一人ひとりが日常業務を通して子どもたちの安全を見守る活動を実践しています。



「子どもの安全を見守る運動」のステッカー

### まちづくりパートナー協定

当社は2009年から札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結して、札幌市内10区ともそれぞれ協定を結び、まちづくり活動への協力を行っています。2019年には、札幌市と周辺11市町村で発足した「さっぽろ連携中枢都市圏」ともパートナー協定を結びました。

また旭川市、函館市、釧路市、帯広市、広尾町ともそれぞれまちづくりへの協力協定が結ばれています。



「さっぽろ連携中枢都市圏パートナー協定」を締結

## 安全安心への取り組み

### 電光掲示板付き災害対応型自動販売機

2006年に締結した北海道との「災害時における飲料の供給等防災に関する協定」に基づいて、「電光掲示板付き災害対応型自動販売機」を活用した市町村との取り組みを展開しています。2012年には、道内全179市町村と防災協定を結びました。この自動販売機は、災害時に遠隔操作によって機内の飲料を無償で提供することができる「フリーベンド」の機能を備え、電光掲示板からは必要な災害情報が発信されます。

当社は道内各地の防災訓練に参加し、緊急物資の輸送訓練や、フリーベンドの実演などを行うことで、災害への備えを啓蒙しています。



防災訓練にてフリーベンドの実演

### 平成30年北海道胆振東部地震発生、当社の災害対応

2018年9月6日、北海道胆振地方中東部をマグニチュード6.7の大地震が襲いました。当社においても、停電によって札幌工場と物流施設が稼働を停止しましたが、BCPを発動させ早期復旧のために全社グループが一丸となって尽力しました。

また、被災地を中心に飲料水を支援したほか(19カ所、2,406ケース)、被災地の市町村庁舎や避難所を



グループ一丸となり早期復旧に向けて尽力

中心に合計16台の災害対応型自動販売機が、製品の無償提供(フリーベンド)を行いました(9月6日～13日)。

### 北海道開発局との取り組み

北海道開発局との包括協定に基づき、自治体とも連携して、道の駅に電光掲示板付き災害対応型自動販売機を設置。「おしらせ道ねっと」で道路情報などを発信する他、災害時に活用される「フリーベンド」の機能付きです(現在全道約140台)。また同局との、道路異常の情報共有と道路緊急ダイヤル(#9910)の啓発協定によって、トラックや営業車両に啓発ステッカーを掲示し、道路の異常などを発見した際は迅速に通報を行っています。



道路緊急ダイヤル【#9910】のステッカー

防災の取り組み  
179  
市町村

### 子育て応援自動販売機

2019年5月、道の駅『北オホーツクはまとんべつ』のオープンに合わせて、道内初の「子育て応援自動販売機」の運用が始まりました。道の駅で北海道開発局が進める子育て支援の一環として、紙おむつや液体ミルク、おしり拭きなどがいつでも買える自動販売機です。同タイプの自動販売機は、今後も多くの道の駅に設置されていく予定です。



### 北海道警察と協働

当社は全道すべての警察署と協定を結び、電光掲示板付き自動販売機で防犯や事件情報を配信する「防犯ほっとインフォメーション」の運用を行っています。さらに自動販売機のポスター掲示部を活用して、子どもたちが描いた防犯や飲酒運転根絶、オレオレ詐欺などの特殊詐欺や児童虐待防止などのポスターを警察署や地域の皆さんと協働で作成、掲出しています。自動販売機は、防犯の分野の社会インフラとしても機能しています。

防犯の取り組み  
道内全  
64  
警察署

### 通学見守りボランティア

児童憲章の精神にもとづき、子どもたちが安心してのびのび暮らせる地域づくりのために、釧路事業所では2010年から社員が交代で小学校の通学路に立ち、声かけ・見守り活動を続けています。こうした地元密着の防犯、交流活動が認められ、2014年には地域の小学校から、2017年には交通安全協会から感謝状をいただきました。



通学路での声かけ・見守り活動

## 地域の企業・団体との連携

### 職業を通してまちを知る「キッズタウン」

職業体験を通じて仕事の楽しさや社会の仕組みを学び、まちの成り立ちを理解しながら地元への愛着を育ててもらうことを目的とした人気のイベントが、「キッズタウン」です。

自治体や教育委員会、地元企業などの協力のもとで、道内5都市(釧路、函館、帯広、苫小牧、旭川)で毎年開催しています。子どもたちは仮想上のまち「キッズタウン」の企業や団体に就職して、さまざまな職業体験を行い、保護者は子どもたちの仕事ぶりをあたたかく見守ります。2019年も5都市で約2,300人が、さまざまな仕事に一生懸命に取り組みました。

キッズタウン  
参加人数  
(累計)  
約**19,400**人



キッズタウンの様子

### ふれあいボランティア除雪、地域の清掃活動

高齢や体が不自由であるなどの理由で自力の除雪が困難な世帯に対して、除雪を通じて地域住民の方々とコミュニケーションをとりながら、地域を元気にする「ふれあいボランティア除雪」を、札幌市清田区・豊平区、三笠市で実施しています。

また地域の清掃活動では、札幌都心の大通公園をきれいにしようと、2013年より当社社員がボランティアで清掃活動を始め、今では多くの企業の方が参加するアクションとなりました。



円山動物園寄付金贈呈式の様子



旭山動物園の循環型農園収穫祭

### 動物園との協働

札幌市との「札幌市円山動物園を舞台とした環境協働事業に関する協定」に基づき、園内に「ネイチャーカフェ・アース」を開業・運営。2013年からは、絶滅危惧種を描いた「ミニツツメイドQoo どうぶつデザイン」を発売し、売上の一部を寄付しています。

また、旭川市とは「魅力あるまちづくりに関する基本協定」を結び、旭山動物園内に休憩スペース「やすらぎの森」を寄贈しました。その隣では動物の排泄物などを活かした循環型農業の環境教育プログラムを行い、さらに「あさひやま“もっと夢”基金」を支援する自動販売機を市内に設置して、売上の一部を同基金に寄付しています。



ふれあいボランティア除雪

## 社会貢献活動の支援

### 寄付型自動販売機

寄付型自動販売機とは、自動販売機の設置契約者さまや購入者の皆さまが、飲料購入を通じて社会との関わりを深め、社会貢献活動を支援できる仕組みをもつ自動販売機です。売上金の一部を、対象団体に寄付することができます。団体の分野は、医療福祉や教育、環境、スポーツなど幅広く、様々な社会的課題に役立てられます。

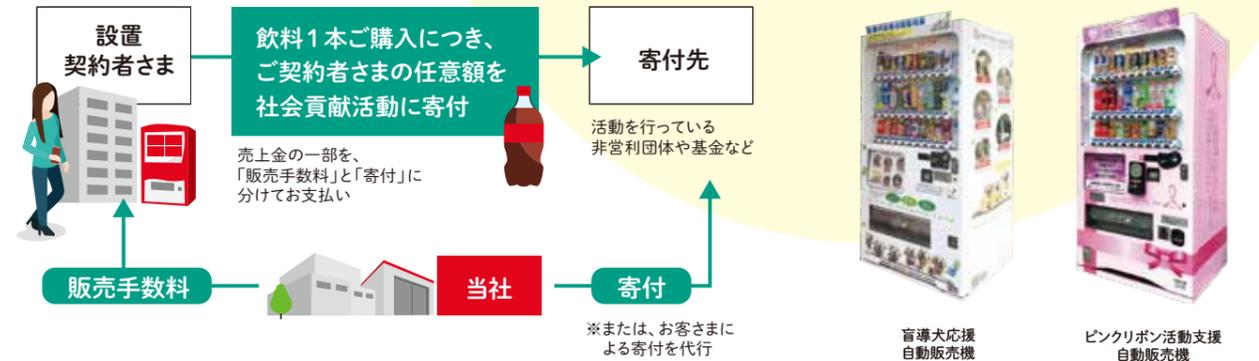
寄付型  
自動販売機  
43種、  
約1,200台



JOCオリンピック支援  
自動販売機

MOOMOO  
自動販売機

### 寄付型自動販売機の支援イメージ



盲導犬応援  
自動販売機

ピンクリボン活動支援  
自動販売機

## 地域活性化のお手伝い

### スポーツで地域に活力を

家族でスポーツを楽しんだり、トップチームを応援することは、地域の元気づくりにつながります。北海道全体にスポーツの力がみなぎるように、当社は北海道のスポーツシーンのトップに位置するプロスポーツチーム、「北海道日本ハムファイターズ」、「北海道コンサドーレ札幌」、「レバンガ北海道」を応援しています。また、それぞれのゲーム観戦や選手たちとの交流などをテーマにしたキャンペーンも展開しています。



「北海道日本ハムファイターズ」当社冠試合

### 全道で地域のお祭りを支援

北海道の代表的なお祭り「さっぽろ雪まつり」や「YOSAKOIソーラン祭り」では、応援デザイン缶を発売して祭りをPR。売上の一部を組織委員会に寄付しています。

「YOSAKOIソーラン祭り」では、本社と同じ清田区にある札幌国際大学と協働し「コカ・コーラ札幌国際大学」として毎年チーム参加しています。また「旭川冬まつり」や「帯広氷まつり」、食の分野では「北の恵み食べマルシェ」や「はこだてグルメサーカス」などをサポートし、地域との関わりを大切にしています。



「コカ・コーラ札幌国際大学」の演舞

### 社会福祉施設へのクリスマスプレゼント

子どもたちや高齢者の方々をはじめとした、多くの皆さまへ笑顔をお届けすることを目的に、1968年より毎年クリスマスの時期に合わせて全道の福祉施設などへ製品プレゼントをしています。2019年は「こども食堂北海道ネットワーク」を通して、道内の子ども食堂に寄贈したものも含め、全道760ヶ所の社会福祉施設へ合計約16万本の製品を寄贈し、多くの方に笑顔をお届けしました。



「こども食堂北海道ネットワーク」への寄贈

社会福祉施設への  
製品贈呈(累計)  
約**340**万本、  
**52**年継続

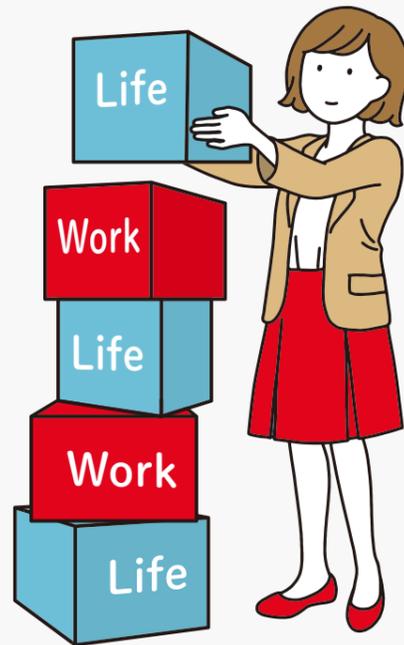
# より良い職場づくり

Work style reform



## 個性とやりがいを育む、ワークとライフの充実

当社では長年取り組んできた「ワーク・ライフ・バランス」の考え方を進歩させ、「ワーク」と「ライフ」の充実をコンセプトに働き方改革に取り組んでいます。目まぐるしく変化する会社生活のなか、目の前の作業に夢中になりすぎるのではなく、心身ともに十分な休養をとり、効率良く進めるための工夫をすることで、同じ仕事をより充実させ生産性の向上を図る社内風土の醸成を目指しています。



### 有給休暇連続5日取得制度を利用して

チエンストア営業本部  
チエンストアカスタマー企画課  
課長 宮本 麻里 さん



営業の部署ということもありイレギュラーな業務も多く発生しますが、課内だけではなく営業本部全体でサポートし合う環境が整っており、安心して5連続有休を取得することができました。組織内での仕事のシェアが出来ているおかげで5連続有休取得時だけではなく、日々サポートし合える環境となっていて、とても心強いです。私自身も5連続有休を取ったことでリフレッシュでき、毎日前向きに仕事に取り組むことができています。

### 有給休暇連続5日取得制度

2018年より年に1回、有給休暇の連続5日取得を義務づけました。ワークとライフのバランスを社員各自が主体的に考えて行動することで、さらなる生産性の向上を実現させると同時に、当該社員が休む日の業務を他のメンバーがカバーすることで、一人ひとりの仕事の見える化を行い、業務の効率化や価値あるワークシェアリングにつながっています。

### フレックスタイム制度

柔軟な働き方を促進するために、当社ではフレックスタイム制度を導入しており、1カ月のあらかじめ定められた所定労働時間数の枠内で、各日の始業・終業時刻を自分で決めて働くことが認められています。これにより仕事の生産性を高めながら、家族や友人とより多くの時間が共有でき、心身の健康が育まれるような働きがいのある職場環境づくりを目指しています。

### 出産・育児・介護支援制度の充実

地域社会で働くことと暮らすこと。仕事と家庭と社会の適正なバランスを図るために、育児・介護休業法に基づいた育児休業制度をはじめ、介護休業制度、子どもの看護休暇、そして所定の労働時間を小学4年生までの子どもを持つ社員を対象に、最大3時間短縮する育児短時間勤務制度を整えています。さらに、必要に応じて所定外労働時間の免除や育児のための時差出勤制度も設け、社員の家族生活や地域との関わりを側面から積極的に支援しています。また、当社の社員向けポータルサイトに「出産・育児のためのカンガルーガイドブック」を掲載して、こうした制度の周知を進めています。

### カムバック制度・社員紹介採用制度

育児や家族の介護、配偶者の転勤などの事情によって退職した元社員や、キャリアアップのための学業・転職などで退職した元社員に再度活躍してもらえる機会を提供する、「カムバック制度」があります。制度の利用者には、慣れ親しんだ会社で培った業務経験を活かせるメリットがあり、当社にとっては、退職後に得た新しいスキルや経験を加えた即戦力の人材を再雇用できるメリットがあります。

また、現在当社で働いている社員に人材を紹介・推薦してもらう「社員紹介採用制度」があり、就職希望者にとっては、社内環境をよく知る社員から事前にいろいろな話が聞けること、そして自分の能力やスキルに合った企業か判断しやすいメリットがあります。また、当社にとっても企業文化にマッチした人材の採用や定着率の向上が望めます。

### 副業認可制度の導入

多様な人材が活躍できる職場の形成と労働生産性の向上を図ることを目的に、2019年4月より一定のルール内での副業が認められました。これにより、自身のアイデアや技術を社外で活用することで、スキルの更なる向上と、社外の視点を取り入れ、当社の新しい価値の創造に繋げることが期待されています。

### 多様な育成制度

時代の変化にも対応できる高度な専門能力の取得を目的に、2011年から「グローバル人材育成制度」が設けられました。働きながら取り組める、「MBAコース」、「語学コース」、「海外研修コース」の3つのコースがあります。さらに通信教育費の一部を負担するなど、自己啓発や各種資格の取得を会社として奨励しています。

また、毎年年初に開催される全社会議「START UP MEETING」は、当社の若手社員が準備メンバーとなって、会社への提言を盛り込んだコンセプト決めから、各所との調整、当日の運営までのすべてを担い、若手社員の育成や他部署とのコミュニケーションの場として活用されています。

### 「出産・育児支援制度」を利用して



ペンディング・リテール営業本部  
札幌販売部 札幌販売一課  
植木 美樹 さん

出産・育児支援制度を利用することで時間的な制約ができてしまい、同僚や上司など身近な人に「サポートをもらう」ことで、申し訳ない気持ちになってしまうこともあります。でもそれ以上にみなさんの温かさを改めて実感することができました。また「仕事と家庭の両立ができること」は代えがたいメリットだと思います。この制度を当たり前だと思わず、周りの人に配慮し、感謝の気持ちを忘れないことを心掛け業務に取り組んでいきたいと思っています。

### 「カムバック制度」で新しい自分を実感

エリア営業本部  
道南営業部 小樽営業課  
坂東 豪 さん



この度、第1号のカムバック社員として再入社しました。平成3年入社後20年間の勤務を機に退社して自動車ディーラーに入社し、新車販売のセールスをしていました。転職後7年経ち、見えない壁にぶち当たり悩んでいたところに、北海道コカ・コーラで「カムバック制度」が始まったと聞き、今度は自動車ディーラーで学んだ営業力を生かせないかと考え、応募した次第です。現在二セコエリア担当として日々奮闘しています。新しい目線の新鮮な気持ちで、営業活動を行っています。

### 「START UP MEETING」準備メンバーのリーダーを経験して感じたこと

チエンストア営業本部  
チエンストア営業二部 営業五課  
森地 勇太 さん



START UP MEETINGは、若手社員が自分たちの働いている会社のことをより深く考える貴重な機会となっています。私はリーダーという立場を経験して、物事を作り上げる難しさや何かを決定することの難しさを感じました。また、リーダーという立場でありながらも周りの協力があってこそ成し遂げられることが多いことも改めて知ることができました。この経験は今後の自分自身にとって必ずプラスに働いていると思っています。



北海道大学広域複合災害研究センター 名誉教授  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 理事

## 丸谷 知己

1977年 北海道大学大学院農学研究科博士課程退学  
九州大学農学部附属演習林助手  
1989年 九州大学博士(農学)・九州大学農学部助教授  
1996年 文部省在外研究員(ニュージーランド・スイス)  
2000年 信州大学農学部(および岐阜大学大学院連合農学研究所)教授  
2004年 北海道大学大学院農学研究科(院)教授  
2013年 北海道大学大学院農学研究院長・農学院院长・農学部長  
2016年 公益社団法人砂防学会会長  
2018年 北海道大学広域複合災害研究センター名誉教授  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構理事

まず、このCSRレポートがたいへんわかりやすいことに感心した。ページをめくっていくにつれ、あたかも洞窟の入り口から、奥に行くほどに枝分かれした洞窟の構造(内容)が俯瞰できるような構成になっており、いわゆるツリー構造がしっかりしているということである。大企業のCSR活動が現代ではどんな位置づけにあり、その中で北海道コカ・コーラボトリングが目指す3つのCSR領域の理念、さらにそれぞれの領域での実績とステークホルダーとの関係などがわかりやすく纏められている。

CSR活動自体についても、非常にわかり易かつよく考えられていることが理解できる。我が国に寄付文化が根付かないことでもわかるように、慈善事業や救済活動はなかなか定着しない。このような日本でCSR活動が成功するには、地域に貢献してあげているのだという慈善目線では通用しない。また、企業が培ってきた技術や得意とする本業から離れたCSR活動はひどく外連っぽく見える。「この企業だからこそ、こんな社会活動ができるのか」とか、「こういう活動はこの企業にしかできないよね」というように、企業イメージを反映した活動が必要であろう。

飲み物を、作って運んで売るといったプロセスはやはりCSRの

大きな柱であろう。たとえば、広大な北海道に40,000台以上の自動販売機が広がっている。製品に必要な水の活用とその水源地域の保護により道産資源のサステナビリティを維持している。また、製品運搬のために77,000kmの国道・市町村道ネットワークを日夜トラックが走り回っている。これらは飲料製造販売業ならではの武器である。この武器を、うまく使い地域社会の資源活用やライフライン、安心・安全に貢献することは、今後も期待できる取り組みであると思う。

北海道コカ・コーラボトリングは、名前だけみれば、あたかも北海道からは一歩も出ません、「どさんこ」のためだけに働き、と自己抑制をしているかに見える。しかし、日々の営業活動はさておき、CSR活動を含むビジネスモデルとしては広く世界から注目されるような無限の可能性がある。そして、そんな企業であればこそ、「どさんこ」は誇りに思い、自分たちの仲間であり、リーディングカンパニーであると認める。今や学校も会社もせまい仲間意識を超えて、できれば地縁社会の枠組みも超えて、世界で評価される時代である。その評価が巡り巡って北海道の評価につながるものが、本当のCSR活動であると思う。

## アンケートにご協力をお願いします

CSRに関して、皆さまにとって今後さらに価値ある情報を提供していくために、ご意見をお聞きかせください。お寄せいただいた声は、当社の今後のCSR活動に役立ててまいります。

「北海道コカ・コーラボトリングCSRレポート2020」をご覧ください誠にありがとうございます。

スマホから簡単アクセス!

## 当社ホームページでもCSR活動をご覧いただけます

このCSRレポートの内容は、当社ホームページでもご覧いただけます。豊かな自然環境に恵まれた北海道に根差す当社の事業活動や、CSR活動をご紹介します。

<https://www.hokkaido.ccbc.co.jp>



# TEAM Coca-Cola TOKYO 2020



コカ・コーラ社は、東京2020のパートナーとして、「スポーツには、世界と未来を変える力がある。」というビジョンを掲げる東京2020が、スポーツの素晴らしさや感動、最高水準のテクノロジーを生かした大会運営、そして東京を訪れる人々へのおもてなしを通じて史上最高のオリンピック・パラリンピックと讃えられ、また、開催によって生まれた技術や行動様式がレガシーとして未来へ継承される大会となるよう尽力していきます。

### オリンピック聖火リレーを応援

コカ・コーラ社が初めて公式にオリンピック聖火リレーに参加したのは、1992年。以来聖火ランナーを募集し、チームコカ・コーラの車両が隊列に加わり、聖なる炎を運ぶお手伝いをしてきました。フォトブース車両と特別観覧車両で関連イベントを展開しながら、コンボイ車両はルート上を走って聖火ランナーを応援します。

2018年8月、日本コカ・コーラ社は、「東京2020オリンピック聖火リレープレゼンティングパートナーシップ契約」の第一号となりました。これによりコカ・コーラ社は、12回目のプレゼンティングパートナーとなりました。



北海道内にて聖火トーチのイベントを実施

### アスリートの強化とオリンピックムーブメントを支援「JOCオリンピック選手強化支援プログラム with コカ・コーラ」

コカ・コーラシステムは、公益財団法人オリンピック委員会(JOC)が主催する「JOCオリンピック選手強化支援プログラム with コカ・コーラ」に協力しています。このプログラムは、オリンピックを目指すアスリートの強化とオリンピックムーブメントを支援することを目的に、2016年1月にスタートしました。その活動の一環として、売上の一部がJOCに寄付される「JOCオリンピック支援自動販売機」を全国に設置しています。



北海道内の「JOCオリンピック支援自動販売機」設置セレモニー

### コカ・コーラとオリンピックの歴史



**1928 アムステルダム大会**  
コカ・コーラ社のオリンピックへの関わりはアムステルダム 1928から始まりました。このとき、米国オリンピック代表選手団とともに、1,000ケースの「コカ・コーラ」が大西洋を渡ったのです。



**1964 東京大会**  
コカ・コーラ社は、ガイドマップ、道路標識、観光情報、日英会話集を提供し、中でも日英会話集は非常に好評を博し、以降のオリンピックでもこれを手本にしたものが採用されました。



**1972 札幌大会**  
札幌に集まった世界の若者たちや、関係者たちに憩いのひと時を提供するために、「コカ・コーラ」や「ファンタ」などを大々的にサブリミングし、日本でのコカ・コーラ社の存在感はより大きいものになりました。(写真:札幌市公文書館所蔵)



**2016 リオ大会**  
コカ・コーラ社のトラックは、オリンピック聖火リレー中、「コカ・コーラゼロ」の限定ミニ缶や、リオ 2016 限定の250ml PETボトルを含む、130万本にもおよぶコカ・コーラ社製品を配布しました。

## [ ご意見・ご感想 ]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいた皆さまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

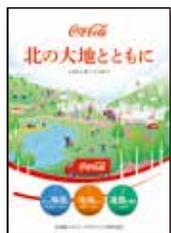
## 作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社  
広報・CSR推進部  
〒004-8588  
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号  
TEL(011)888-2091

ホームページアドレス  
<https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

### 【CSRレポート バックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。  
<https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>



CSRレポート2017



CSRレポート2018



CSRレポート2019



## 北海道コカ・コーラボトリング株式会社

(コカ・コーラ指定会社)

〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号  
TEL(011)888-2091 (広報・CSR推進部)

COCA-COLA、コカ・コーラ、COCA-COLA ZERO、コカ・コーラ ゼロ、  
COCA-COLA PLUS、コカ・コーラ プラス、FANTA、ファンタ、  
GEORGIA、ジョージア、CRAFTMAN、クラフトマン、爽健美茶、そうけんびぢゃ、  
からだ巡茶、Advance、からだすこやか茶、綾鷹、あやたか、紅茶花伝、  
AQUARIUS、アクエリアス、Qoo、クー、REAL GOLD、リアルゴールド、  
MINUTE MAID、ミニッツメイド、ILOHAS、い・ろ・は・す、檸檬堂は、  
The Coca-Cola Company Limitedの登録商標です。  
CANADA DRY、カナダドライは、Atlantic Industriesの登録商標です。

2020年3月発行 / 次回は2021年3月の発行予定です。